

【ひだかプラン】新学習指導要領の全面実施に向けた授業改善

平成31年度全国学力・学習状況調査に基づく改善方策

学校教育に求められること

- 一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められています。(学習指導要領(平成29年告示)前文より)
 - 教育課程全体を通して、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の三つの柱で整理された資質・能力を育成することが求められています。(学習指導要領(平成29年告示)解説総則編より)
- ⇒ **未来社会を切り拓く人材を育成するには、「何ができるようになるか」が重要**であり、そのためには、「何を学ぶか」に加えて、「どのように学ぶか」が今まで以上に大切になります。

「何を学ぶか」 ～指導事項が明確な授業～

	教科	日高管内	全国との差
小学校 第6学年	国語	59.5	-4.3
	算数	60.9	-5.7
中学校 第3学年	国語	70.8	-2.0
	数学	54.3	-5.5
	英語(聞・読・書)	51.4	-4.6

【平成31年度全国学力・学習状況調査平均正答率】

学習指導要領で指導する内容を確認

全国調査の調査問題は、新学習指導要領が求める**育成を目指す資質・能力を踏まえた具体的なメッセージ**として示されていることから、結果分析で課題となった領域において、**何を指導しなければいけないのか**、指導内容を確認する重要な手がかりであると受け止めることが大切です。

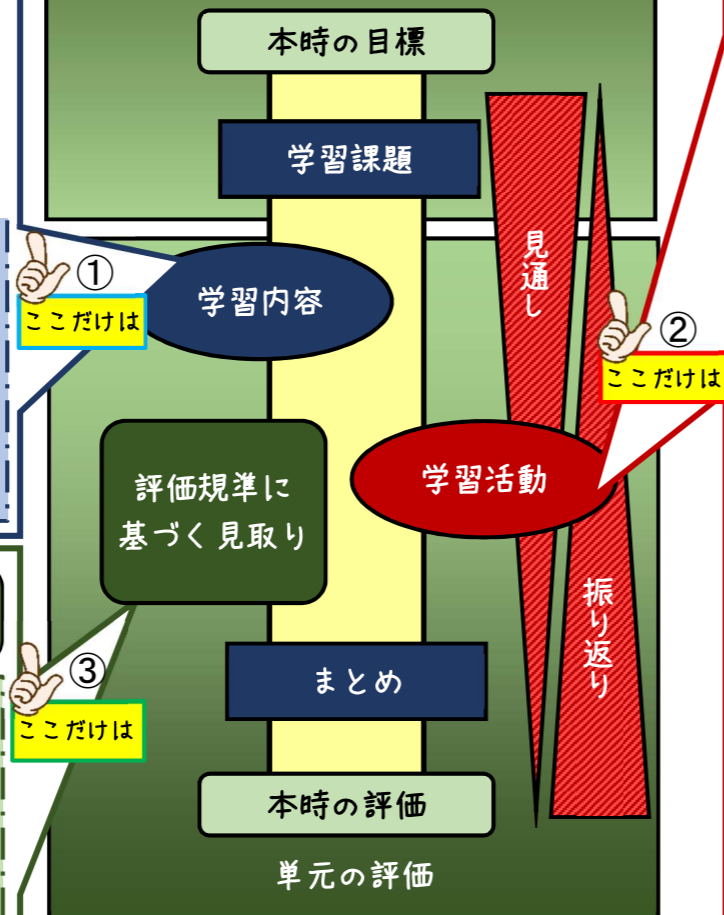
「何ができるようになるか」

～ねらいと評価規準を明確にした授業～

- **育成を目指す資質・能力**
単に、何を覚えたかにとどまることなく、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の三つの柱で整理された**資質・能力を単元全体でバランスよく育成**することが大切です。
- **本時の目標と評価の明確化**
「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を大切にしつつ、本時の目標と評価規準を明確に設定することを通じて、「**何ができるようになるか**」という、**ぶれない軸**をもつことが大切です。
- **自己肯定感を高める**
子どもたちが活躍できる場面を位置付け、よさを発揮させるとともに、積極的に評価し伝えることを通じて、**自分のよさや可能性を実感させる**など、自己肯定感を高める指導の工夫をすることが大切です。

単元の目標

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力・人間性等



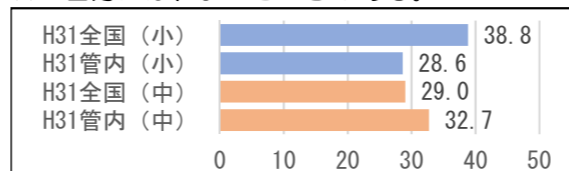
【軸がぶれない授業づくりの視点】

- ① 本時の目標は単元の目標を踏まえたものになっていますか。
- ② 学習活動は、考えを広げたり深めたり、学んだことを活用させたりするとともに、目標を達成するためのものになっていますか。
- ③ 評価規準は、目標を概ね達成させた子どもの姿の具体を示していますか。

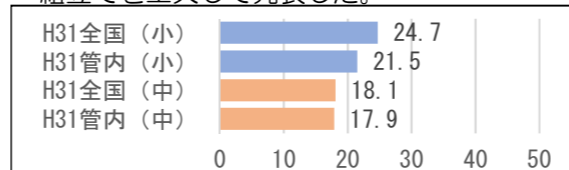
「どのように学ぶか」～主体的・対話的で深い学びを実現させる授業～

【全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙】

☆ 自分には、よいところがある。



☆ 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話や文章の組立てを工夫して発表した。



必要感のある学習課題

教師主導の課題設定ではなく、既習事項や子どもの実生活における疑問や気付きから生まれる**必要感のある学習課題の設定**となるよう工夫することが大切です。

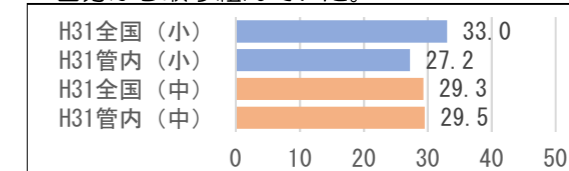
根拠を基に、筋道立てて説明させる発問の工夫

一問一答で正解を発言させるだけの発問ではなく、「なぜそのように考えたのか」を問い返したり、「どうして正しいといえるのか」を問い返したりすることを通じて、**根拠を基に説明させたり、筋道立てて説明させたり**するとともに、一人の考えから他の子どもの思考へとつなげるなど、発問を工夫することが大切です。

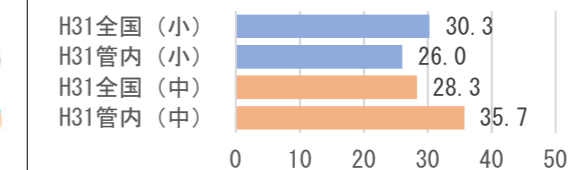
考えを広げ、深める学習活動

教師が一方向的に説明するだけの授業ではなく、指導の**ねらいを達成するために**、子どもが知識や技能を活用して、自分の考えたことを友達と伝え合う活動を通じて、**考えを広げたり、深めたり**することができるよう学習活動を工夫することが大切です。

☆ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。



☆ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。



関連付けて深く学ぶ

自ら学びに向かう学習意欲を高めるためには、学習内容を**既習の内容や実生活・実社会と関連付けながら深く理解**させ、他の学習内容や生活の場面において、**学んだことを活用させる**ことを通じて、もっと知りたい、分かるようになりたい、できるようになりたいと感じさせることが大切です。

自己調整する力を高める

間違えた解答について、「どの部分が間違いなのか」、「どのように考えるとよいのか」を子どもに考えさせ説明させるなど、丁寧に扱うことを通じて、間違いをおそれず課題解決に挑戦したり、自らの学習過程を評価して改善したりするなど、**自らの学びを調整しようとする力を伸ばす**という視点をもつことが大切です。

見通しと振り返りの充実

この時間には何ができるようになればよいか、課題解決に向けてどのように取り組むとよいかなど、学習の見通しをもたせたり、何ができるようになったのかなどを振り返らせたりすることが大切です。

授業改善への挑戦が子どもの真剣な表情、
にこやかな笑顔につながります

